

令和5年度

事業計画及び収支予算書

自 令和5年4月 1日

至 令和6年3月31日

一般財団法人 蔵王酪農センター

令和5年度事業計画書(案)

1. 基本方針

【情勢】

①令和2年度はコロナ感染によってチーズ部門が前年度比30%マイナスという大幅な売り上げの減少となったが、令和3年、4年度と対前年比10%増と、徐々に回復してきた。この3年間は、コロナ禍によるチーズ部門の売り上げ減少による経営危機であった。

令和4年度はさらに、ロシアのウクライナ侵攻による戦争や、円安によって飼料、肥料、電気、燃料などあらゆる仕入物資が高騰し、酪農・畜産の生産コストとチーズ製造コストが大幅に上昇し、牧場部門、チーズ部門共に収支が急速に悪化するという経営危機に直面している。

②チーズ部門は、昨年11月から飲用向け、発酵乳向け乳価が10円/kg 値上がりし本年4月からは、チーズやバターなど乳製品向けの乳価の値上げや東北電力の再値上げの実施が予定されている。令和5年は、こうした更なる製造コストの増大分を適切に織り込み、大幅な製品値上げを円滑に実現できなければ事業が成り立たない情勢となっている。チーズ製品の改廃や値上げに関する様々な取り組みの成否が、経営にとって極めて重要となっている。

牧場部門は、国産飼料への取り組みを強化し、飼料費の圧縮を図ることと、乳牛の受胎率を引き上げるなど、生乳生産の生産性を向上させる繁殖技術や、飼養管理など改めて経営の基本が問われることになる。

③こうした状況の中で大事なことは、酪農畜産経営の改革とナチュラルチーズの販売方法や商品開発の革新を進めるとともに、蔵王酪農センターが生み出す製品やサービスそれに人材育成事業などの価値が、将来ともなくてはならないものであり地域にあって大切な存在であるという、消費者・国民の理解や支援が得られるかが重要となる。

酪農・畜産の牧場改革、ナチュラルチーズの製造・販売事業の革新、そして酪農研修、チーズ研修、大学との連携などにおいて、この困難な状況を乗り越えて、蔵王酪農センターの価値をどう前へ進めていくかが問われている。

【農場事業の再編・合理化】

①蔵王酪農センターの実証農場としての基本は、草地酪農と機械化酪農である。酪農家の高齢化、輸入飼料の高騰という状況の中で危機に直面している酪農経営の将来へ向けて、蔵王酪農センターとして存在感を発揮する必要がある。飼料基盤の

強化については、自作地70haの草地更新、耕作放棄牧草地の借入拡大、県内ホールクroppサイレージの利用拡大、食品残渣などの有効活用など、輸入に極力頼らない、国産飼料中心の給与体系の確立にむけた取り組みを進める。

- ②酪農経営の収支改善を図るために、乳飼比の改善、分娩間隔の短縮、遺伝子検査による優良後継牛の確保に取り組む。

また、キャトルセンターで飼料高騰により赤字経営に陥っている乳用育成牛の受託事業については、頭数を減らしながら廃止する方向で取り組む。さらにF1の肥育事業も赤字拡大が深刻なことから、東京農大と連携した褐毛と黒牛の受精卵に転換する事を検討し、収益を確保できる特色ある肥育牛経営の検討を進める。

【チーズ製造・販売事業の強化】

- ①新型コロナウイルス感染症は令和5年5月8日から5類に移行され、令和5年度は外国人訪日客によるインバウンド需要や国内観光需要もコロナ以前の90%程度までに回復すると予測されており、従前に近い経済活動の復活が期待されている。

従って今年度は、製品値上げによる買い控えの影響をやわらげるような円滑な情報提供や営業展開を進め販売力強化に取り組んでいく。

直売需要、業務用需要の拡大が前年度以上に実現すると見込み、製品値上げ分と併せてチーズ部門の売上高を120%に引き上げた目標を設定する。

- ②クリームチーズ、モッツアレラチーズの需要拡大を柱とした工場における増産体制を整備すると共に、ピザやテイクアウトのアイスクリーム、スイーツといった付加価値の高いチーズ製品の売り上げ増大を図り、殺菌乳、OEMのカスタードクリームなどの拡大生産にも取り組むなど工場稼働率を引き上げ、収益力の高度化を進める。

2. 重点実施事項

(1) 農場事業

ア. 酪農部門の収支改善

飼料高騰を踏まえ、増頭は行わない。搾乳頭数85頭規模を維持しながら低能力牛の淘汰を進める。目標として、①1日1頭あたり平均乳量33kg(前年実績31kg)、②分娩間隔の短縮、平均搾乳日数200日(前年実績220日)、③乳飼比(前年実績64%から57%へ)の改善に取り組む。また、コンポストバークの改善を行い乳房炎発生牛の減少に取り組む。

イ. 自給飼料増産

昨年に続きウクライナ情勢、中国の輸入増加等から、輸入飼料の不足、価格高騰が定着化していく状況の中で、前回の草地更新より10年以上経過している自作地の草地更新を順次進めて、自給飼料の増産及び、飼料費の低減に取り組む。

ウ. 遺伝子検査の活用

搾乳後継牛に対して遺伝子検査を行い、確実に能力の高い優良後継牛を選抜する新たな取り組みを実施する。高能力の牛には性判別精液を使用し、優良後継牛を確保、それ以外には和牛受精卵を使用し副産物収入の増大を図るなど、長期的に搾乳牛群の能力向上を着実に実施して経営改善を目指す。

(2) キャトルセンター

ア. 和牛子牛生産

OPU(経膈採卵)を利用し受精卵の確保を行い、繁殖母牛の更新、優良な子牛の増頭により、優良繁殖雌牛の確保と肥育素牛供給に取り組む。

・出荷頭数:26頭(子牛17頭、スモール9頭)、繁殖母牛30頭

イ. 交雑種および和牛肥育

農場事業により生産された交雑種を肥育し、「蔵王爽清牛」を年間20頭出荷する。しかしこのF1肥育事業は赤字経営となっている実態を踏まえ、今年度はこれまでのF1肥育を止めて子牛で販売することとする。そのうえで東京農大との包括連携協定の一環として、コストの確保が可能となるような「農大和牛」の肥育事業の検討を進める。

ウ. 乳用育成牛の飼養管理受託

飼料価格の高騰など乳用育成牛のコスト増大により、県内酪農家からの預託頭数が大幅な減少となっている事態を踏まえ、当面は預託料金の引き上げなどにより収支バランスの改善を図り、この事業の廃止を検討する。

(3) TMRセンター

ア. 発酵 TMR(酪農用ニューチャージ)生産

輸入飼料の高騰によるコストアップを解消するために国内産粗飼料の確保を行い、地域酪農家および蔵王デーリーパイオニアセンターへの安定供給に努める。

年間3,120トン(前年度実績3,160トン)の供給を目指す。

イ. ドライ TMR(大胃造)生産

飼料の安定的な確保に努め、地域畜産農家へ、年間864トン(前年度実績880トン)の供給を目指す。

(4) チーズ事業

ア. 営業活動の強化

一般用商品、業務用商品ともに4月値上げを実施し、チーズ事業の年間売り上げ1,097,953千円(前年比122%)を目標として取り組む。採算性の低い商品のスクラップを進めると共に、特に長年輸入物との競争下で低価格の供給となっていた業務用商品の価格の全体的な底上げを図り、収益性を改善する。

国産チーズ志向の高まりに対応して新規顧客の獲得を図り、特に地元企業への貢献を意識した販路開拓に努めるとともに、既存取引先との関係を維持・強化する。また、出荷業務のさらなる効率化に取り組む。

イ. インターネット販売及び情報発信の強化

インターネット販売の課題解決を進めながら EC サイトのさらなる充実を図り、年間売上げ 26,000 千円(前年比 130%)を目標として取り組む。また、公式 Instagram、公式 LINE 等の SNS 及び既存メディアを積極的に活用して財団の事業取り組みと商品及びサービスの PR に努め、知名度向上を図る。

ウ. 工場敷地内3店舗の活性化

- ①チーズキャビンにおける製品値上げに関する理解促進と牧場やチーズ製造に関する、お客様のニーズに応じた丁寧な情報提供に取り組む。また、対面試食販売、接客サービスに関する職員研修等を実施して店舗の活性化と後継人材の育成を図りながら売上げの拡大に取り組む。
- ②チーズハウスのメニューと内外装等の見直しに引続き取り組み、集客向上と年間売り上げ 24,000 千円(前年比 110%)を目標として取り組む。
- ③パン工房はスイーツ工房に転換しスイーツ商品に重点的に取り組み、開発力と供給能力の向上を図り年間売り上げ 7,500 千円(前年比 120%)を目標として取り組む。

エ. 新商品開発

- ①蔵王チーズのピザを3アイテムに強化し、年間売り上げ 20,000 千円(前年比 150%)を目標として販売拡大を図る。
- ②令和5年2月に発売したアイスクリーム 120ml 商品の本格販売と最大6アイテムまでの強化に取組み、年間売り上げ 30,000 千円を目標として販売拡大を図る。
- ③日本獣医生命科学大学が統括する「麹菌熟成チーズ開発普及事業」「ブラウンチーズ開発普及事業」に引続き参画し、麹チーズのさらなる品質向上と、ホエイの新商品となり得るブラウンチーズの商品化に取り組む。
- ④一般社団法人食のみやぎ応援団のパートナー企業として、宮城県内の企業等と連携して新商品開発に取り組む。
- ⑤チーズ製品の不採算製品の廃止と新商品や外部委託製品の積極的な開発に取り組む。

オ. 殺菌乳・OEM事業

殺菌乳事業は、前年比 124%の増大目標を掲げ積極的に取り組む。

中沢乳業(株)蔵王工場としてのOEM製品の供給量増加による工場稼働率の向上を図るとともに、将来的な事業拡大を見据えた施設整備の検討を行う。

カ. SQF認証の推進

GFSI認証規格SQFレベル2について、HACCPを基礎とする食品安全システムの構築と継続的な改善により認証を維持し、品質事故ゼロを期して殺菌乳事業に取り

組む。また、SQFシステムを一層効果的なものにするため、教育訓練の充実による人材育成を推進し、全役職員への理解浸透を図る。

(5) 酪農普及事業

ア. 新型コロナウイルス感染防止対策及び施設環境整備

体験館やレストランではウィズコロナの時代に即した対策を実施するとともに適切な施設管理及び小動物管理を行い、お客様が安心して利用できる環境と、景観を活かしたフォトスポットを整備するなどして集客人数の増大を図る。

イ. 蔵王ハートランドの運営合理化

一部店舗の休業と効率的な人員配置により一層の運営合理化を図り、収支改善に取り組む。令和5年度は体験館は土日祝日を中心とした営業への転換、ウインドスクエアは休業しアートイベントなどへの場所貸し等の多目的スペースとしての利用促進を図り、ウインドデッキは団体予約限定営業とするなど繁閑に応じた営業スタイル、マルチ型人員体制を整備する。

ウ. 乳製品及び地場農産物等の普及拡大

蔵王チーズを利用した新メニュー及びサービスの積極的な提案によって集客と売り上げの向上を図る。また、地域の生産者との連携を深め、地場農産物を積極的に利用して地域性のある商品を提供することに努め、地産地消による地域の農業振興に資する。また、蔵王町が推進する蔵王ジオパーク構想に参画し、ジオパーク認定商品の開発と観光コンテンツの造成に取り組む。

エ. HACCP制度化対応

食品衛生法の一部改正によるHACCPに沿った衛生管理の制度化に対応するため、宮城県の「食の安心・安全・五つ星事業」の認証取得をめざしてHACCPの考え方を取り入れた衛生管理を実施する。

(6) 人材育成、教育研修事業

ア. 酪農研修の実施

酪農ヘルパー全国協会が主催する「酪農ヘルパー専門技術員養成研修会」の実施に協力する。また、宮城県職員、乳業会社社員、農協関連団体職員を対象とした酪農研修を実施する。

イ. ナチュラルチーズ製造技術研修会及びシンポジウムの開催

国の「国産チーズ等競争力強化支援対策事業」により、ナチュラルチーズ製造技術の基礎と専門コースの研修会とシンポジウムを引き続き開催し、国産チーズの振興に寄与する。

ウ. 体験学習及び各種研修の強化

体験型ツーリズムの需要の高まりに対応するため、体験学習及びJJA女性協などの各種研修の受け入れを強化し、とくに国産チーズの消費拡大に資する「チーズの食

べ方教室」を積極的に推進する。

また、中央酪農会議が提唱、東北生乳販売農業協同組合連合会から委託されている「地域交流牧場全国連絡会」と「酪農教育ファーム」の活動に参加する。

エ. 東京農業大学との連携

包括連携協定を結んでいる東京農業大学からの研修生を受け入れ、学生の酪農やナチュラルチーズへの理解向上の取り組みを実施する。

オ. 麻布大学との連携

麻布大学の学生の研修を受け入れ、酪農、畜産経営への理解向上の取り組みを実施する。

カ. 研修施設の整備のあり方の検討

老朽化が進み補修、改修が必要な宿泊研修施設「蔵王高原荘」と今後の研修事業にあり方について引き続き検討する。

(7)本部

ア. 人材確保と育成強化

業務遂行のための人材を確保するために基本給5%アップを実施するとともに、適切な人員配置を行う。また目的と成果目標を定めた教育研修を実施し、具体的な事業の改善に取り組むとともに、事業計画を職員個々の年間目標と連動させた新たな人事評価システムの構築に向けて検討を行う。

イ. 職場環境の整備

職員の作業環境と福利厚生の上に取り組み労働環境の改善を図る。令和4年4月から義務化された「パワーハラスメント防止措置」について社内周知を浸透させ、原因や背景となる要因を解消するための取り組みを行う。

ウ. インボイス制度および電子帳簿保存法への対応

令和5年10月から施行されるインボイス制度と令和6年1月から運用が開始される改正電子帳簿保存法への対応準備をするとともに、スムーズな移行を図る。また業務の効率化を図り、経理システム改善の検討を進める。

エ. 危機管理体制の強化

地震、火災、感染症拡大などに対し迅速かつ的確な対応を図るため、日常の点検と定期的な訓練を実施する。また、緊急事態に備え、事業継続計画書に沿った危機管理対策を強化し電子データを含めた財産の保全に努める。

オ. 遊休資産の処分

ゴルフ会員権や出資株式などの売却を実施する。

3. 投資計画

(単位:円)

固定資産取得計画

部 門	種 類	内 容	取得金額	備 考
チーズ工場	構築物	トラックスケール更新	5,000,000	更新
計			5,000,000	

リース計画

部 門	種 類	内 容	物件価格	備 考
TMRセンター	機 械 装 置	ベレーラッパー	17,000,000	更新
計			17,000,000	

4. 要員計画

(単位:人)

部 門 別	令和5年			増 減						令和6年			備 考
	3月末現在			増 加			減 少			3月末見込			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
農 場	3		3	1		1	1		1	3	0	3	
キャトルセンター	3	1	4							3	1	4	
TMRセンター	2		2							2	0	2	
研 修 所	1	1	2							1	1	2	
販 売	4	7	11	1	1	2		1	1	5	7	12	1名昇格、1名増、1名減
工 場	13	5	18	1		1	1		1	13	5	18	1名増、1名減
普 及	1	4	5		1	1	1	1	2	0	4	4	1名増、2名減
管 理	2		2							2	0	2	
本 部	2		2							2	0	2	理事兼務職員
正規職員計	31	18	49	3	2	5	3	2	5	31	18	49	
非正規職員	8	9	17	2	2	4	1	1	2	9	10	19	1名昇格、4名増、1名減
合 計	39	27	66	5	4	9	4	3	7	40	28	68	

5. 資金計画

既往借入金の償還計画

(単位:千円)

区分	部 門	借 入 先	令和5年3月末 残高	令和5年度 償還額	令和6年3月末 残高	備 考
長期	農場	農林中央金庫	196,131	15,087	181,044	15年償還
長期	チーズ	日本政策金融公庫	185,700	14,300	171,400	7年償還
長期	チーズ	日本政策金融公庫	225,000	12,500	212,500	20年償還
長期	本部	日本政策金融公庫	200,000	0	200,000	15年償還 (据置期間2年)
	計		806,831	41,887	764,944	

収 支 予 算 書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

(単位:千円)

科 目	本 年 度 予 算 額	前 年 度 予 算 額	増 減	摘 要
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
(1) 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	30	30	0	
基本財産運用収入計	30	30	0	
(2) 会費収入				
賛助会費収入	1,990	1,990	0	
会費収入計	1,990	1,990	0	
(3) 事業収入				
① 農場事業収入				
生乳普及収入	115,920	117,333	-1,413	
素牛収入	7,971	10,750	-2,779	
小計	123,891	128,083	-4,192	
② 研修所事業収入				
宿泊料収入	4,298	2,664	1,634	
食堂収入	2,786	1,727	1,059	
売店収入	398	247	151	
施設利用料収入	478	296	182	
小計	7,960	4,934	3,026	
③ チーズ事業収入				
チーズ普及収入	372,581	353,124	19,457	
チーズギフト収入	60,000	43,399	16,601	
バター普及収入	11,848	17,640	-5,792	
ドリンク普及収入	31,401	19,890	11,511	
アイス普及収入	46,516	18,914	27,602	
牛乳普及収入	750	840	-90	
乳清ジャム普及収入	1,440	2,754	-1,314	
生クリーム普及収入	8,664	4,800	3,864	
ヨーグルト普及収入	18,119	10,936	7,183	
殺菌乳供給収入	283,683	281,392	2,291	
脱脂乳供給収入	37,240	27,216	10,024	
キャビン売店収入	85,400	54,500	30,900	
チーズハウス飲食収入	15,500	16,300	-800	
パン工房収入	10,000	10,000	0	
業務用加工品収入	111,531	63,256	48,275	
その他収入	4,800	3,600	1,200	
小計	1,099,473	928,561	170,912	
④ 酪農普及事業				
体験館売店収入	25,500	46,300	-20,800	
オンライン販売収入	26,000	0	26,000	
スクエア飲食収入	0	7,600	-7,600	
デッキ飲食収入	1,000	4,200	-3,200	
シェッド飲食収入	38,170	36,400	1,770	
体験料収入	7,400	8,300	-900	
小計	98,070	102,800	-4,730	
④ キャトルセンター事業				
和牛販売収入	16,800	24,850	-8,050	
交雑種販売収入	18,620	14,000	4,620	
預託料収入	36,376	32,850	3,526	
小計	71,796	71,700	96	
⑤ TMRセンター事業				
飼料販売収入	249,732	185,100	64,632	
小計	249,732	185,100	64,632	
事業収入計	1,650,922	1,421,178	229,744	
(4) 補助金収入				
国庫補助金収入	0	0	0	
地方公共団体補助金収入	0	0	0	
その他補助金収入	6,000	6,000	0	
補助金収入計	6,000	6,000	0	
(5) 雑収入				
受取利息配当金収入	15	15	0	
雑収入	29,607	26,520	3,087	
雑収入計	29,622	26,535	3,087	
事業活動収入計	1,688,564	1,455,733	232,831	

(単位:千円)

科 目	本年度 予算額	前年度 予算額	増 減	摘 要
2.事業活動支出				
(1)事業費支出				
①農場事業飼育原価				
飼料費支出				
購入飼料費支出	66,959	50,887	16,072	
肥料・種苗費支出	0	0	0	
小計	66,959	50,887	16,072	
農場経費支出				
電力料支出	5,389	3,000	2,389	
燃料費支出	770	1,980	-1,210	
諸材料費支出	7,200	6,000	1,200	
修繕費支出	1,200	3,600	-2,400	
農場雑費支出	11,400	12,000	-600	
リース料支出	2,149	828	1,321	
育成牛預託費	12,811	9,581	3,230	
小計	40,919	36,989	3,930	
労務費支出				
給料手当支出	10,098	16,104	-6,006	
パート賃金支出	2,878	0	2,878	
法定福利費支出	1,930	2,425	-495	
厚生費支出	180	240	-60	
退職共済掛金支出	60	168	-108	
小計	15,146	18,937	-3,791	
農場事業費支出計	123,024	106,813	16,211	
②研修所事業費支出				
食堂材料費支出				
食堂材料費支出	731	518	213	
売店仕入支出	226	160	66	
小計	957	678	279	
事業経費支出				
電力料支出	1,944	740	1,204	
燃料費支出	946	641	305	
クリーニング料支出	75	53	22	
雑費用支出	498	247	251	
小計	3,463	1,681	1,782	
労務費支出				
給料手当支出	6,814	3,189	3,625	
パート賃金支出	600	500	100	
法定福利費支出	1,051	479	572	
厚生費支出	120	60	60	
退職共済掛金支出	60	0	60	
小計	8,645	4,228	4,417	
研修所事業費支出計	13,065	6,587	6,478	
③チーズ事業原価支出				
原材料費支出				
チーズ等原材料費支出	256,431	188,118	68,313	
殺菌乳原材料支出	237,077	247,996	-10,919	
脱脂乳原材料支出	30,400	25,920	4,480	
包材費支出	40,700	39,225	1,475	
小計	564,608	501,259	63,349	
工場経費支出				
電力料支出	43,813	18,319	25,494	
燃料費支出	23,976	17,487	6,489	
リース料支出	18,783	20,769	-1,986	
修繕費支出	12,000	12,000	0	
工場雑費支出	30,558	23,809	6,749	
小計	129,130	92,384	36,746	
労務費支出				
給料手当支出	68,480	62,215	6,265	
パート賃金支出	14,764	14,973	-209	
法定福利費支出	12,578	11,665	913	
厚生費支出	1,140	900	240	

(単位:千円)

科 目	本年度 予算額	前年度 予算額	増 減	摘 要
退職共済掛金支出	912	972	-60	
小計	97,874	90,725	7,149	
工場事業管理費支出	9,312	10,710	-1,398	
工場事業費支出計	800,924	695,078	105,846	
キャビン費用支出	57,269	35,916	21,353	
チーズハウス費用支出	6,411	6,357	54	
パン工房費用支出	2,929	3,100	-171	
店舗費用計	66,609	45,373	21,236	
労務費支出				
給料手当支出	43,018	48,468	-5,450	
パート賃金支出	10,758	14,711	-3,953	
法定福利費支出	7,819	9,120	-1,301	
厚生費支出	720	745	-25	
退職共済掛金支出	360	460	-100	
小計	62,675	73,504	-10,829	
チーズ事業費支出計	930,208	813,955	116,253	
④酪農普及事業費支出				
原材料費支出				
スクエア材料費支出	0	2,584	-2,584	
スクエア仕入費支出	0	190	-190	
デッキ材料費支出	450	1,890	-1,440	
シェッド材料費支出	10,306	9,828	478	
シェッド仕入費支出	1,603	946	657	
体験館材料費支出	1,332	1,104	228	
体験館仕入費支出	10,200	28,336	-18,136	
オンライン仕入費支出	17,420	0	17,420	
小計	41,311	44,878	-3,567	
事業経費支出				
オンライン経費支出	572	0	572	
スクエア経費支出	0	479	-479	
デッキ経費支出	100	252	-152	
シェッド経費支出	1,260	1,427	-167	
体験館経費支出	6,580	5,788	792	
小計	8,512	7,946	566	
労務費支出				
給料手当支出	13,831	22,302	-8,471	
パート賃金支出	14,194	15,869	-1,675	
法定福利費支出	3,972	5,009	-1,037	
厚生費支出	240	330	-90	
退職共済掛金支出	180	240	-60	
小計	32,417	43,750	-11,333	
酪農普及事業費支出計	82,240	96,574	-14,334	
⑤キャトルセンター事業費支出				
飼料費支出				
預託牛飼料費支出	21,678	10,950	10,728	
和牛飼料費支出	10,948	9,630	1,318	
交雑種飼料費支出	12,096	9,000	3,096	
肥料・種苗費支出	3,775	1,500	2,275	
小計	48,497	31,080	17,417	
キャトルセンター経費支出				
業務委託費支出	2,772	3,000	-228	
薬品衛生費支出	1,619	1,560	59	
受精卵費支出	840	840	0	
精液費支出	960	960	0	
電力料支出	728	600	128	
燃料費支出	147	110	37	
諸材料費支出	4,800	3,000	1,800	
修繕費支出	600	1,200	-600	
センター雑費支出	5,900	6,200	-300	
小計	18,366	17,470	896	

(単位:千円)

科 目	本年度 予算額	前年度 予算額	増 減	摘 要
労務費支出				
給料手当支出	14,562	12,532	2,030	
パート賃金支出	600	2,435	-1,835	
法定福利費支出	2,187	2,222	-35	
厚生費支出	240	180	60	
退職共済掛金支出	120	120	0	
小計	17,709	17,489	220	
キャトルセンター事業費支出計	84,572	66,039	18,533	
⑥TMRセンター事業費支出				
飼料費支出				
飼料原材料費支出	197,844	140,400	57,444	
小計	197,844	140,400	57,444	
TMRセンター経費支出				
電力料支出	1,882	1,320	562	
燃料費支出	553	480	73	
諸材料費支出	3,600	3,600	0	
修繕費支出	1,200	1,850	-650	
センター雑費支出	1,800	2,400	-600	
リース料支出	8,234	4,696	3,538	
小計	17,269	14,346	2,923	
労務費支出				
給料手当支出	6,456	6,406	50	
パート賃金支出	5,301	5,204	97	
法定福利費支出	1,727	1,716	11	
厚生費支出	120	120	0	
退職共済掛金支出	120	0	120	
小計	13,724	13,446	278	
TMRセンター事業費支出計	228,837	168,192	60,645	
事業費支出計	1,461,946	1,258,160	203,786	
(2)推進費管理費支出				
①事業推進費支出				
農場事業推進費支出	12,751	11,906	845	
チーズ事業推進費				
チーズ輸送費支出	18,168	15,861	2,307	
普及推進費支出	433	3,569	-3,136	
サンプル費支出	4,290	4,290	0	
支払手数料支出	1,763	1,200	563	
開発研究費支出	600	1,000	-400	
推進雑費支出	20,304	11,499	8,805	
小計	45,558	37,419	8,139	
キャトルセンター事業推進費支出	2,479	2,720	-241	
TMRセンター事業推進費支出	0	0	0	
事業推進費支出計	60,788	52,045	8,743	
②管理費支出				
人件費支出				
役員報酬支出	32,160	32,160	0	
給与手当支出	9,749	6,073	3,676	
パート賃金支出	2,441	4,913	-2,472	
法定福利費支出	6,554	6,345	209	
厚生費支出	360	330	30	
退職共済掛金支出	180	120	60	
小計	51,444	49,941	1,503	
業務費支出				
旅費交通費支出	4,924	5,020	-96	
通信費支出	3,214	3,420	-206	
事務費支出	1,092	1,080	12	
消耗品費支出	1,892	1,880	12	
図書費支出	285	321	-36	
会議費支出	0	0	0	
小計	11,407	11,721	-314	
諸税負担金支出				
租税公課支出	4,148	4,541	-393	
諸負担金支出	0	0	0	
小計	4,148	4,541	-393	

(単位:千円)

科 目	本年度 予算額	前年度 予算額	増 減	摘 要
施設費支出				
保険料支出	5,513	5,728	-215	
水道光熱費支出	12,818	9,046	3,772	
車両費支出	7,200	6,400	800	
修繕費支出	1,887	2,800	-913	
消耗備品費支出	713	1,200	-487	
施設管理費支出	10,529	10,322	207	
賃借料支出	13,846	11,403	2,443	
小計	52,506	46,899	5,607	
雑費支出	9,600	9,600	0	
支払利息支出	0	0	0	
雑支出	0	0	0	
管理費支出計	129,105	122,702	6,403	
推進費管理費支出計	189,893	174,747	15,146	
(3)特別事業費支出				
補助事業費支出	4,400	4,400	0	
その他支出	0	0	0	
特別事業費支出計	4,400	4,400	0	
事業活動支出計	1,656,239	1,437,307	218,932	
事業活動収支差額	32,325	18,426	13,899	

(単位:千円)

科 目	本 年 度 予 算 額	前 年 度 予 算 額	増 減	摘 要
Ⅱ 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入	0	0	0	
2. 投資活動支出				
(1) 特定資産取得支出				
退職給付引当資産取得支出	0	0	0	
特定資産取得支出計	0	0	0	
(2) 固定資産取得支出				
建物建設支出	0	0	0	
建物付帯設備支出	0	800	-800	
構築物購入支出	5,000	3,500	1,500	
機械装置購入支出	0	7,000	-7,000	
器具備品購入支出	0	1,800	-1,800	
車輛購入支出	0	750	-750	
固定資産取得支出計	5,000	13,850	-8,850	
(3) その他支出				
建物共済積立金支出	1,500	1,500	0	
保険料積立金支出	1,800	1,800	0	
その他支出計	3,300	3,300	0	
投資活動支出計	8,300	17,150	-8,850	
投資活動収支差額	-8,300	-17,150	8,850	
Ⅲ 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
(1) 借入金収入				
長期借入金収入	0	0	0	
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
(1) 借入金返済支出				
長期借入金返済支出	41,887	56,187	-14,300	
借入金返済支出計	41,887	56,187	-14,300	
財務活動支出計	41,887	56,187	-14,300	
財務活動収支差額	-41,887	-56,187	14,300	
予備費支出	0	0	0	
当期収支差額	-17,862	-54,911	37,049	
前期繰越収支差額	72,117	130,000	-57,883	
次期繰越収支差額	54,255	75,089	-20,834	